

# 明治史料館通信

1986. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 2 No.1 通巻第5号

江原素六とその周辺 <4>

## 明治四年の十三大藩海外視察団

明治三年(一八七〇)十一月、全国十三大藩に対し、欧米視察のための人員二名宛を選定するようにとの太政官の断行を政治的日程にのせた明治政府が、地方行政担当者としての諸藩中堅

幹部を海外視察によって啓蒙し、開明化させ、中央集権国家体制への移行をスムーズにしようという意図であった。視察団の顔ぶれは左の如く決定した。

静岡藩の代表には、少参事・軍事掛として沼津兵学校の管理職にあった江原素六と郡政掛筆頭・権少参事などをとめていた相原安次郎の二人が任命された。他藩の代表者も、ほとんどが権大参事・少参事・権少参事クラスの人物である。正式視察員二十名のほか、各藩独自の藩費留学生も数名加わり、総員三十八名になった。

一行は、明治四年五月に「アメリカ号」で出航したが、江原の伝記では、四月に「シティー・オブ・ペキン号」で出航したとなっている。

サンフランシスコからニューヨークを視察し、一行はヨーロッパへ向ったが、江原はアメリカ視察に専念した。

江原は同年十二月に帰国したが、既に静岡藩も沼津兵学校もなくなっていた。しかし、この海外での見聞が、その後の沼津での教育・産業面への貢献となったことは言うまでもない。相原は静岡県警部長などをつとめた。

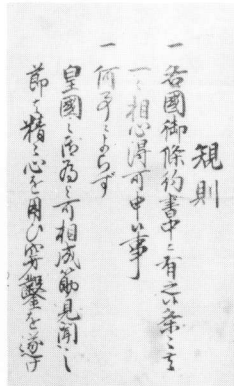
この視察団の特徴は、岩倉使節団と比較して、佐賀の乱の山中や自由民権の片岡・江原・大東など、在野的・反官的な人材を輩出した点にあるという。参考V犬塚孝明「明治四年海外視察団の性格」『武蔵大学人文学会雑誌』10



相原安次郎(29歳)



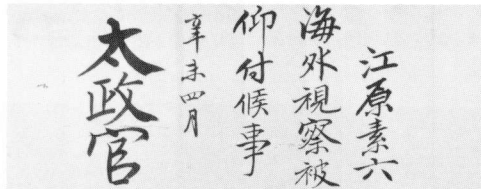
江原素六(29歳)



海外渡航規則



彦根藩	同	高知藩	同	徳島藩	同	岡山藩	同
大東	伴	片岡	星合	山本	津田	香川	香川
義徹	権太	健吉	常恕	正己	弘道	忠武	忠武



鳥取藩	同	山口藩	同	名古屋藩	同	静岡藩	同
池田	山中	野村	丹羽	丹羽	北川	相原安次郎	北川
徳潤	一郎	正素	昭陽	維孝	由己	素六	由己
徳潤	一郎	清典	昭陽	維孝	由己	素六	由己

シリーズ

沼津兵学校とその人材

幕末維新の遣外使節・留学生と

沼津兵学校の人脈

◎第一次遣欧使節(文久元年)

沼津兵学校の人材やその周辺の人物には、幕末や明治維新时期において、幕府や明治政府の遣外使節に加わったり、留学生となった者が少なくない。彼らの海外体験は日本の近代化に大きく貢献した。

ここでは、近代日本の海外交渉史における、沼津兵学校とその人材の一側面を紹介してみたい。

◎咸臨丸渡米(万延元年)

条約批准のための遣米使節の随行艦として、太平洋を横断した。艦長勝海舟以下、乗組員は長崎海軍伝習所で学んだ幕府海軍のエリートであり、その中には後に沼津兵学校一等教授方になった伴鉄太郎と赤松則良(大三郎)がいた。いずれも測量方兼運用方をつとめている。また、機関長次席をつとめた山本金次郎の息子山本安次郎は、維新後沼津兵学校掛川支寮に学び、海軍中将・海軍機関総監になった人物である。



永持明德(17歳)

開市開港延期の交渉のため派遣され、仏・英・蘭・普・露の諸国を歴訪した。全権竹内下野守以下一行三十八名。その中には後に沼津兵学校三等教授方になった永持明德(五郎次)がいた。彼は、養父永持亨次郎の実兄、つまり伯父にあたる外国奉行支配組頭柴田貞太郎(剛中、日向守)の家来という名目で随行していた。永持は、沼津兵学校ではフランス語を担当、後に陸軍砲兵中佐となった。なお柴田貞太郎は、慶応元年(一八六五)にも、横須賀製鉄所建設の理事官として渡欧し、フランス・イギリスをまわっている。

◎オランダ留学生(文久二年)

幕府が、海軍強化のためオランダに発注した軍艦製造の監督も兼ねた海軍留学生および洋学・医学留学生、合わせて十五名。

海軍士官は、内田正雄・榎本武揚・沢太郎左衛門・赤松則良・田口俊平の五人。留学生取締の内田正雄(恒次郎)は、沼津兵学校三等教授方万年千秋の実弟にあたり、維新後は大学中博士などになり、著書『輿地誌略』は明治初期教科



オランダ留学生ほか

書のベストセラーとなった。赤松則良は、咸臨丸に続き二回目の海外派遣。オランダでは語学・数学のほか造船技術を実地に勉強し、帰国後沼津兵学校教授をつとめた。後明治政府に出仕、日本海軍の技術面での基礎づくりに貢献し、海軍中将・男爵になった。洋学修業の留学生は、津田真道と西周の二人。ライデン大学のフイセリングに法学・政治学・経済学などを学んだ。帰国後は、津田が静岡学問所、西が沼津兵学校でそれぞれ留学の成果を発揮したほか、明治政府に出仕後も、教育・政治・軍事などの制度づくりに参画したり、明六社のメンバーとして文明開化を思想的にリードしたことは周知の事実であろう。医学生は、林紀(研海)と伊東玄伯の二人。林は、沼津病院重立取扱をつとめた林洞海(のり)の息子。帰国後、静岡藩の静岡病院長をつとめ、後に陸軍軍医総監となった。



乙骨 巨(17歳)



田辺太一(32歳)

◎第二次遣欧使節(文久三年)  
 横浜鎮港談判のために派遣され、フランスで交渉にあたった。一行は正使池田筑後守以下三十五名。  
 沼津兵学校の関係者では、一等教授方になった田辺太一が外国奉  
 行支配組頭として随行している。  
 あとは間接的な人物だが、二等教授方乙骨太郎乙の弟乙骨巨(上田綱二)も同行している。また、副使河津伊豆守(祐邦)の息子河津三郎太郎(祐賢)は、維新後沼津勤番組一番頼頭取となり、陸軍砲兵中佐となった人物である。目付河田相模守(熙、貫之助)は、維新後静岡学問所頭となった人物

◎イギリス留学生(慶応二年)  
 十四名の留学生中には、後に静岡学問所の教授になった中村正直・外山正一・杉徳次郎・岩佐源二ら  
 がいた。杉は沼津兵学校二等教授方杉亨二の甥。また、沼津病院の林洞海の養子で、後に外相になった林董も留学生の一人だった。



大築彦五郎(16歳)

であり、沼津兵学校第六期資養生田口卯吉の母の従兄にあたる。  
 ◎ロシア留学生(慶応元年)  
 山内作左衛門・市川文吉・田中次郎・緒方城次郎・大築彦五郎・小沢清次郎の六名の幕臣子弟が派遣され、首都ペテルスブルクで修業した。沼津兵学校の直接関係者はいないが、大築彦五郎(尚正)は、兵学校一等教授方になった大築尚志(のち陸軍中将)の弟である。当時は開成所独乙学稽古人世話心得だったが、帰国後は開成学校や北海道開拓使に奉職した。



徳川昭武一行

◎フランス留学生(慶応三年)  
 パリで開催される万国博覧会への参列のため、將軍慶喜の弟徳川昭武が將軍名代として派遣された。外国奉行向山隼人正(黄村)以下がこれに随行した。今回もまた外国奉行支配組頭田辺太一が参加した。向山・田辺ら外国方以外は、昭武自身も含めて、万博参加後もパリに留学生としてとどまったが、その中に後に沼津兵学校三等教授



阿部 潜

方になった山内勝明(文次郎)がいた。彼は当時大砲差図役勤方であり、幕府陸軍関係の留学生十三名の一人であった。この十三名のほか、さらに七名が追加派遣される予定だったが、事情により中止された。留学の機会を逸した七名の中には、後に沼津兵学校三等教授方になった神保長致(寅三郎)がいた。なお向山黄村は後に静岡学問所頭となり、その弟佐久間信英と養子向山慎吉は沼津兵学校の資養生となっている。  
 ◎岩倉使節団(明治四年)  
 条約改正の予備交渉と欧米先進諸国の文物制度の視察を兼ね、明治政府が派遣。特命全權大使岩倉具視以下、木戸・大久保・伊藤といった薩長維新官僚の中に混って田辺太一と阿部潜の二人の沼津兵学校関係者の名前が随行員中にある。田辺は外務少丞、幕末以来



の外交経験を買われての抜擢であった。阿部は、江原素六とともに沼津兵学校設立の最大の功労者だが、理事官・戸籍頭田中光顕の随伴という名目だった。沼津兵学校時代に鹿児島に赴き、薩摩藩の教育改革に力を貸したとき、西郷隆盛に知遇を得たのがコネになっていたらしい。前述の林董も二等書記官として同行している。

◎最初の女子留学生（明治四年）

岩倉使節と同行して、吉益亮子・上田梯子・山川捨松・永井繁子・津田梅子の五人の少女がアメリカへ留学した。津田梅子や山川（大山）捨松については周知であろう。永井（瓜生）繁子は、沼津病院三等医師兼永井玄栄の養女、兵学校第五期資業生永井久太郎の妹であ

る。実父は幕臣益田鷹之助、実兄は三井物産初代社長益田孝である。海軍大将瓜生外吉と結婚した。また、上田梯子は、医師桂川甫純（沼津病院医師桂川甫策や軍事掛藤沢次謙の一族）に嫁した。梯子の姉孝子は、前述の乙骨太郎乙の弟亘（上田綱二）と結婚し、英文学者上田敏を生んだ。

お知らせ欄

◎刊行図書のご案内

●『江原素六旧蔵明治大正名士書簡集』

江原素六が明治・大正期を通じて交流した沼津兵学校関係者、政治家、宗教家、実業家など当時の名士達からの手紙類四十点を書簡集として刊行し、頒布しています。

A 4判 六三ページ

頒価七〇〇円（送料二五〇円）

●『沼津市博物館紀要10』

これまで姉妹館である沼津市歴史民俗資料館が発行していた『沼津市歴史民俗資料館紀要』を改名し、『沼津市博物館紀要』として明治史料館と共同で、両館の研究調査活動の成果を公表していくこと

となりました。ただし、号数は従来のものを継承していきます。

B 5判一六八ページ  
頒価二、〇〇〇円

（送料二五〇円）

◎事業のお知らせ

●『沼津兵学校』展

8月1日～10月31日  
3階展示室

開館以来収集に努めてきた、「沼津兵学校」に関係した人物たちの関係資料が展示されます。

●関連事業

劇映画『沼津兵学校』上映会

8月3日 14時

市民文化センター第一練習室

●歴史講座「沼津兵学校の人材」

日時・8月10日～9月7日各日曜

14時～16時 連続5回

会場・明治史料館講座室

日程・表のとおり

申込・館まで電話にて

◎特別開館日、休館日について

●5月19日は無料開放日

今年5月19日は月曜休館日ですが、この日は江原素六の命日にあ

日時	講師	内容(仮称)
8・10(日)	四方一弥 (国士館大学教授)	赤松則良について
8・17(日)	片桐芳雄 (愛知教育大学助教授)	渡部 温について
8・24(日)	金原宏行 (浜松市美術館学芸員)	川上冬崖について
8・31(日)	和田 守 (静岡大学教授)	田口卯吉について
9・7(日)	樋口雄彦 (明治史料館学芸員)	島田三郎について

たり駿河台墓地（館北方）で墓前祭が行われますので、通常どおり開館します。また、例年当館ではこの日を記念して観覧料を無料としておりますので、この機会にどうぞお出かけ下さい。

●展示替えのための特別休館日

企画展示展示替えのため、ご迷惑をおかけいたしますが、つぎの期間休館いたします。  
7月25日(金)～7月31日(木)

沼津市明治史料館通信 第5号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(2)三三三五